marantz®

Model PM6001 取扱説明書

Integrated Amplifier

マランツのステレオインテグレーテッドアンプをお買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用の前に、この取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保存してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、ご不審な箇所などありましたら、お早めにお買い上げ店、当社お客様ご相談センター、または最寄りの当社営業所／サービスセンターにお問い合わせください。

目 次

安全上のご注意 1
主な特長 5
ご使用の前に 6
接続の前に 7
　スピーカーコードの接続について 7
　バイワイヤー接続 7
　電源コードの極性 7
接続方法 8
各部の名称とはたらき 10
　前　面 10
　背　面 11
　リモコン：RC6001PM 12
基本的な使い方 15
　再生のしかた 15
　録音のしかた 15
機能の使い方と設定のしかた 16
　MAIN IN 端子について 16
　リモートコントロール端子 17
故障とお考えになる前に 18
仕様・外観寸法図 19
その他 20

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

安全上のご注意

警 告

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 乾電池は、充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- 表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

- 万一、この機器を落したり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。
この機器をあお向けや横倒しし、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

- この機器を設置する場合は、壁から 20cm 以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れる時は、機器の天面から 20cm 以上、背面から 20cm 以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。

安全上のご注意

警　告

- この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

分解禁止

- この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

注　意

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、テレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみになる前にも、音量（ボリューム）を最小にしてください。
- 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
- 製品に同梱している電源コードのみ使用してください。製品に同梱していない電源コードは使用しないでください。

- 電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- ご不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治団体の指示（条例）に従って処理してください。

電源プラグをコンセントから抜く

- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

安全上のご注意

注　意

● 5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

● 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

● 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス⊕端子とマイナス⊖端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

● 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

● 長期間使用しない時は、電池をリモコンから取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池室についた液をよく拭き取ってから新しい電池をいれてください。また、万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

電源プラグをコンセントから抜く

● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

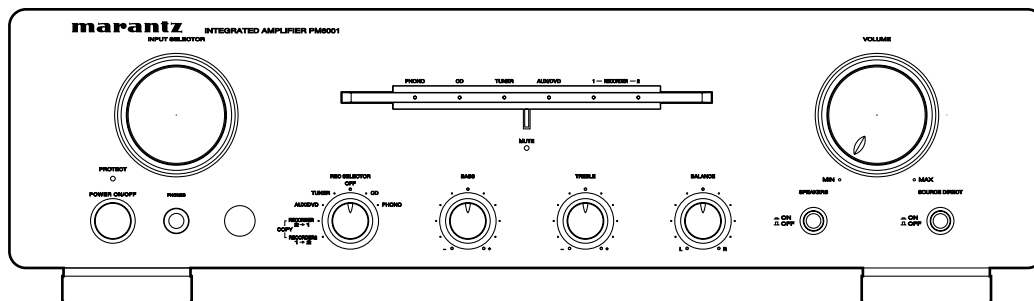
● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

● この機器の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
● この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。
● この機器の上に物を置かないでください。この機器の上には通気孔があります。通気孔をふさぐと中に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

● この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

高温注意

● 使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。特に上面など高温部には触れないでください。

主な特長

PM6001は上級機PM-11S1の設計思想を受け継いだステレオ・インテグレーテッド・アンプです。

● CDダイレクト・バッファー・アンプ

PM6001のCD入力端子には専用の入力バッファーアンプを搭載しています。このバッファーアンプはCD端子に入力された信号が左右チャンネル間の干渉や他の回路からの影響を受けにくくしています。バッファーアンプの回路には上級機に搭載しているHDAM-SAの回路をベースとしたディスクリート構成の高速のバッファーアンプを採用しています。

● CDダイレクト・セレクター

前述のCDダイレクトバッファーアンプの出力に専用のリレースイッチを配置し、入力信号をダイレクトに最短経路でプリアンプに伝送します。

● 瞬時電流供給能力の向上

パワースペックが同じアンプでも音質が違うことは知られていますが、マランツではこの原因をスピーカーのドライブ能力の違いにあると考えています。PM6001のメインアンプは、瞬間的に25アンペア以上の電流を流す能力（瞬時電流供給能力）を持っていますのでスピーカーを強力にドライブします。

● ショート・パワーライン・レイアウト

瞬時電流供給能力を向上させるため、回路内大電流ラインを最短で結ぶことを最優先とした新しいレイアウトを採用しました。このレイアウトは電源回路とパワーアンプの出力段及び放熱器を一体化し、大電流ラインが最短で左右対称になるようレイアウトしています。

● 電流帰還アンプ

プリアンプとパワーアンプには高速の電流帰還方式の増幅回路を採用し、スーパーオーディオCDプレーヤーからの信号を忠実に増幅します。また、高速の電流帰還アンプは自然な音場空間を再現します。

● 大容量ブロックコンデンサ

メインアンプ用の電源回路には音質検討を重ねた15000μF大容量コンデンサを搭載し、プリアンプ用の電源回路にはオーディオ用3300μFコンデンサを搭載しています。

● 高音質フィルムコンデンサー、電解コンデンサー

● WBTスピーカー端子

ご使用の前に

■ 次のような場所には置かない

本機を末永くご使用いただくために、次のような場所には置かないでください。

● 直射日光が当たる所

● 暖房器具など熱を発生する機器に近い所

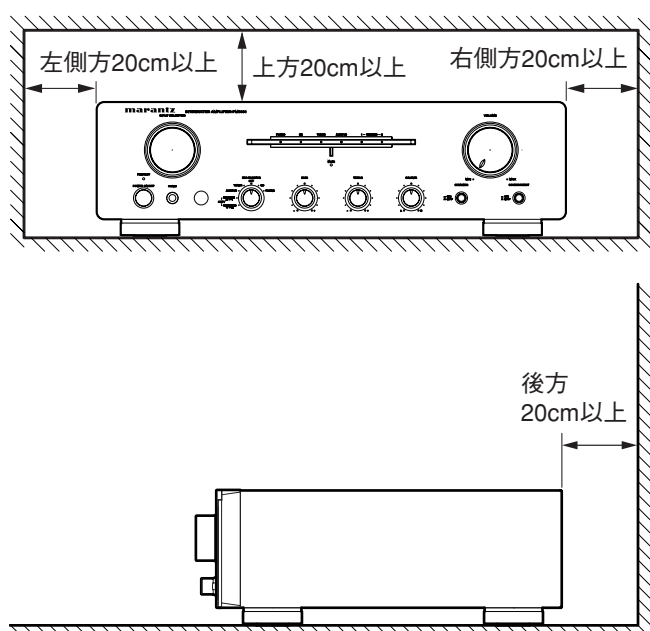
● 湿気の多い所や風通しの悪い所

● ほこりの多い所

● 振動のある所

● ぐらついた台の上や傾斜のある不安定な所

● 天地の狭いオーディオラックなど放熱を妨げる所

放熱のため、本機を下図の通りに壁や他の機器等から離して設置してください。

■ 上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。通風孔をふさぐと事故や故障の原因になります。

■ 使用中・使用直後に上面などの高温部には触れない

使用中と使用直後は、操作部、後面接続端子部以外は高温になっているので手を触れないでください。 やけどのおそれがあり危険です。 特に上面などの高温部には触れないでください。

■ ご使用いただく電源電圧・周波数

● 電源電圧は、交流 100V をご使用ください。

● 電源周波数は、50Hz 地域または 60Hz 地域でご使用できます。

■ 乾電池の取扱いかた

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂、腐食などの原因となることがあります。
以下の注意をよく読んでご使用ください。

● 長期間（1ヶ月以上）リモコンを使用しない時は、電池を取り出しておいてください。

● 古い乾電池と新しい乾電池を一緒に使用しないでください。

● 乾電池のプラス＋とマイナスーの向きを機器の表示通り正しく入れてください。

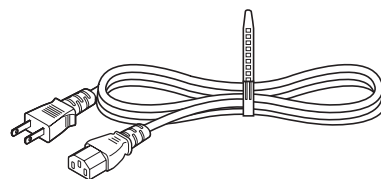
● 乾電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。

● 液もれを起こした時は、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

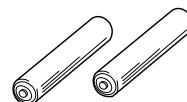
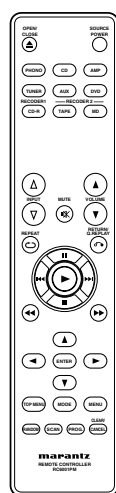
● 不要になった電池を廃棄する場合は、お住まいの地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

■ 付属品の確認

ご使用の前に下記の付属品が揃っていることをご確認ください。

● AC 電源ケーブル

製品に同梱している電源コードは、同梱されている製品のみ使用できます。同梱している製品以外には、この電源コードを使用することができません。

● リモコン RC6001PM

● 単 4 乾電池（2 本）

● 保証書

● 愛用者登録カード

● 取扱説明書（本書）

接続の前に

スピーカーコードの接続について

- スピーカーコードを接続する際は、ショートしないよう十分注意してください。
- スピーカーコードの被ふくは下図のように剥いでください。

コードの端から約1cmくらいの所にカッターで切り込みをいれます

コードの端の被ふくをむきとります

芯線をよじります

- スピーカーコードとの接続

反時計方向に回し、ゆるめます

芯線を差し込みます

時計方向に回してしめます

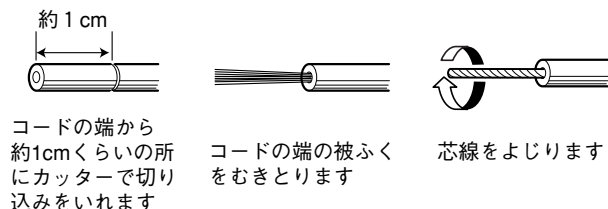
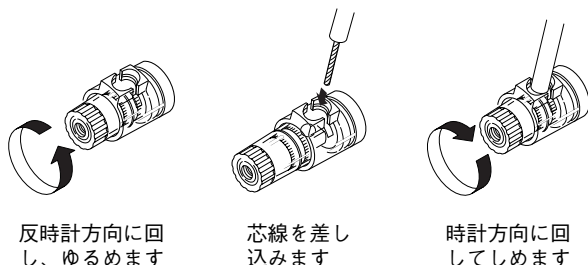
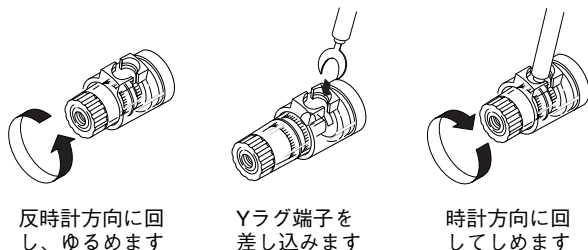
- Y ラグ端子との接続

反時計方向に回し、ゆるめます

Yラグ端子を差し込みます

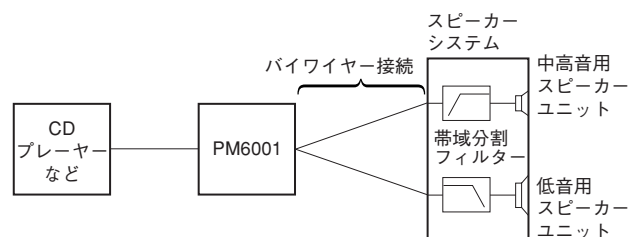
時計方向に回してしめます

- バナナプラグとの接続

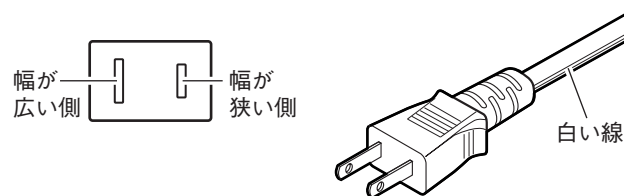
バナナプラグを差し込みます

お使いになるスピーカーシステムは以下の条件を満たしていることが必要です。以下の条件を満たしていない場合には、アンプの保護回路が動作し正しく再生できません。場合によってはアンプやスピーカーシステムが故障する恐れもあります。

- 1 組のスピーカーシステムのみお使いになる時は、インピーダンスが 4 Ω以上のスピーカーシステムをお使いください。
- 2 組のスピーカーシステムを同時にお使いになる時は、インピーダンスが 8 Ω以上のスピーカーシステムをお使いください。

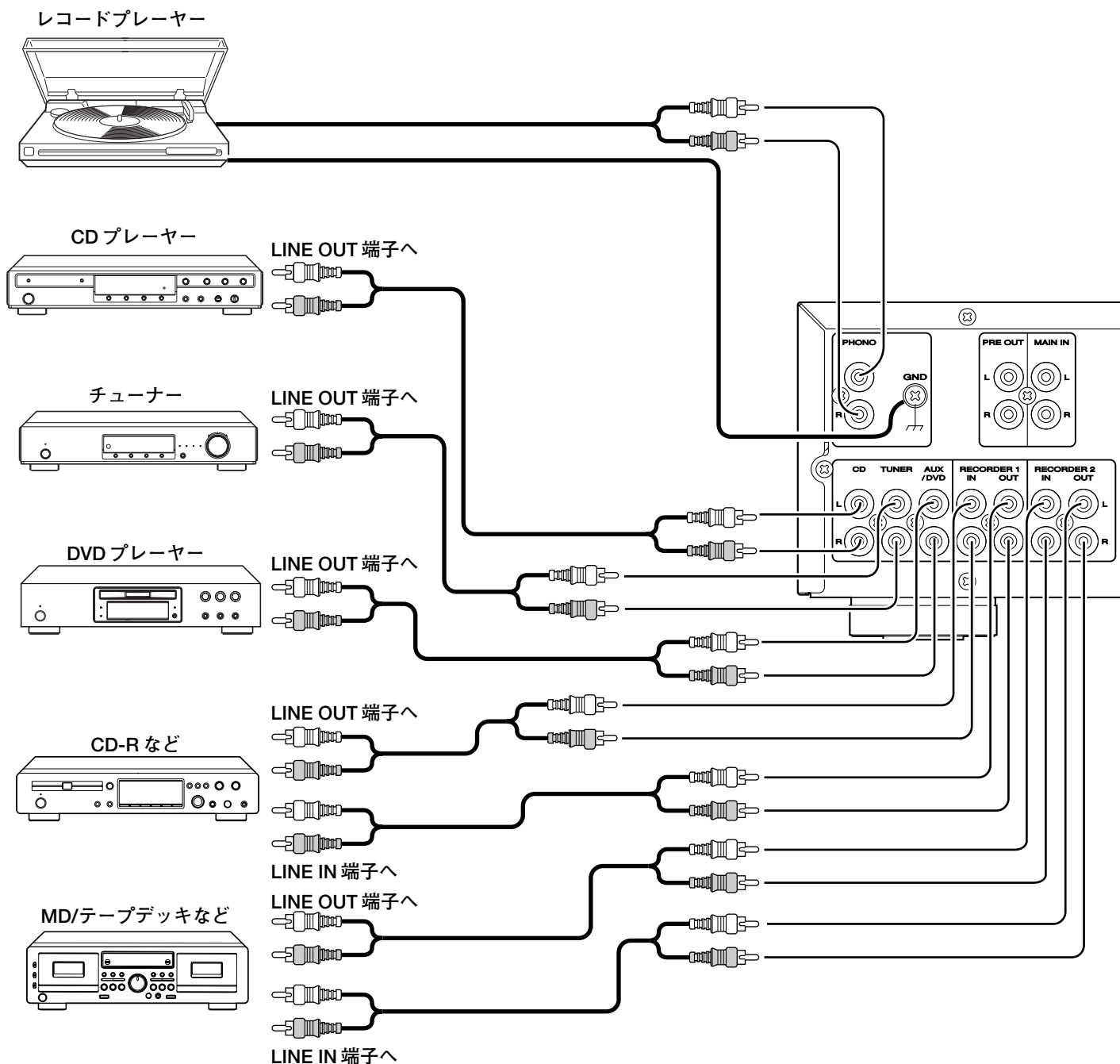
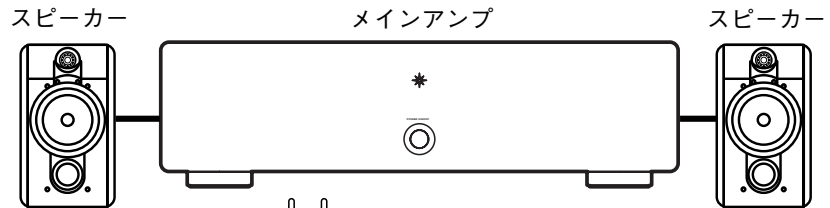
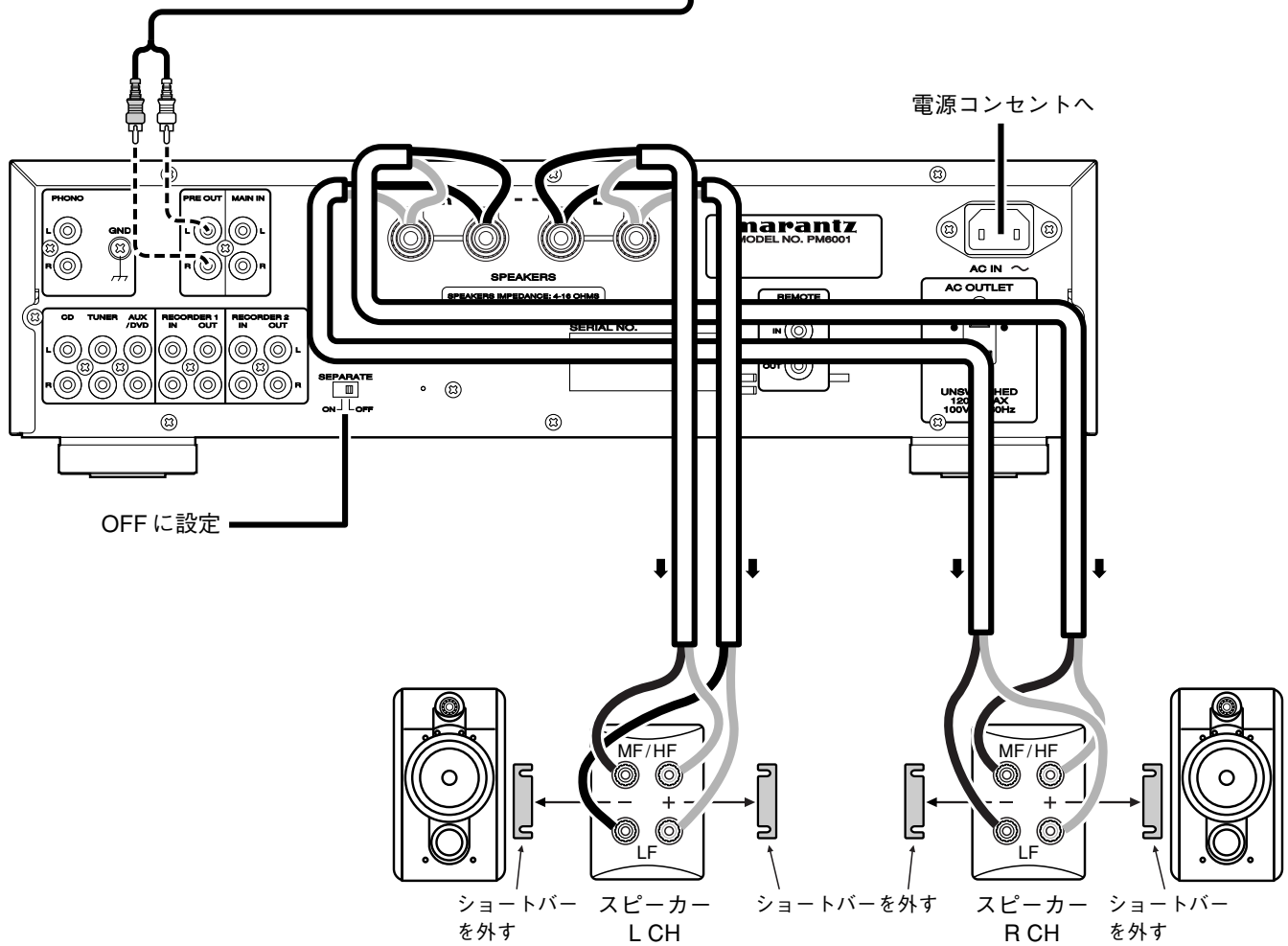
バイワイヤー接続

バイワイヤー接続はスピーカーの低音用入力端子および中高音用入力端子を別々のスピーカーコードでアンプに接続する方法です。低音用と高音用のケーブルを分けることで、低音用スピーカーユニットで発生する逆起電力による中高音用スピーカーユニットへの干渉を少なくすることができます。
接続例（9 ページ）のPM6001 とスピーカーはバイワイヤー接続されていますのでこちらも参照してください。

電源コードの極性

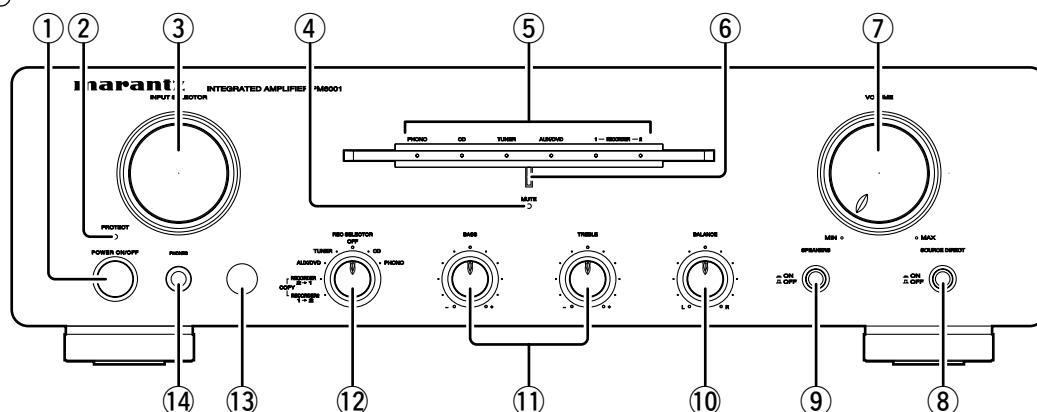
家庭用の交流電源には極性があり、本機は電源の極性を合わせることで最良の音質が得られるよう設計されています。図のように家庭用の電源コンセントは穴の幅の違いで極性が表示され、本機に付属の電源コードは「白い線」で極性が表示されています。
電源の極性を合わせて本機をお使いいただく場合は、電源コードの「白い線」で表示されている側を電源コンセントの幅が広い側に合わせて接続してください。
しかし、ご家庭の環境によっては電源コンセントに極性表示が無い場合や、逆に接続した方が好ましい場合があります。そのような場合は実際に音質をご確認のうえ最適な極性にすることをおすすめします。

ご注意
電源コードを接続する際には必ず本機の電源スイッチを OFF にしてください。

接続方法

■接続例：通常のステレオを再生するための基本的な接続

接続する機器の取扱説明書を参照し正しく接続してください。

接続方法

- 上記の接続例ではスピーカーシステムとの接続はバイワイヤー接続（7 ページ）になっています。
- 前面の SPEAKERS ボタンを ON にしてください。

各部の名称とはたらき

前　面

① POWER ON/OFF ボタン

このボタンを押すと電源が ON し、もう一度押すと電源が OFF します。

② PROTECT インジケーター

アンプの保護回路が動作している場合はこのインジケーターが点灯もしくは点滅します。

③ INPUT SELECTOR つまみ

再生/録音する入力ソースを選択するつまみです。選択した入力ソースはファンクションインジケーターに表示されます。選択された入力ソースは電源を OFF したあとも記憶され電源再投入時も同じソースが選択されます。

④ MUTE インジケーター

ミューティング機能が働くと点灯するインジケーターです。リモコンの MUTE ボタンを押すとミューティング機能が働き音量を下げます。もう一度 MUTE ボタンを押すと解除します。また、ミューティング中にリモコンの VOLUME ▲/▼を押してもミューティング機能は解除します。
アンプの保護回路が動作した場合は約 15 秒間インジケーターが点滅しミューティング機能が働きこのます。このインジケーターが点滅中は自動的にボリュームつまみが回転して音量が下がります。

⑤ ファンクションインジケーター

インプットセレクターで選択した入力ソースを表示するインジケーターです。

⑥ POWER インジケーター

電源が入っている間、青色に点灯します。

⑦ VOLUME つまみ

つまみを時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。付属のリモコンで音量を調整することもできます。アンプの保護回路が動作した場合は、約 15 秒間自動的にボリュームつまみが回転して音量が下がります。

⑧ SOURCE DIRECT ボタン

このボタンを押すとバランスとトーンコントロール回路をバイパスして信号が伝送されますので、より良い音を楽しむことができます。(このボタンが押されていると BALANCE、BASS、TREBLE つまみでの調整はできません。)

⑨ SPEAKERS ボタン

リアパネルの SPEAKERS 端子に接続されているスピーカーの出力を ON/OFF するボタンです。ヘッドホンをお使いになるときはスピーカー出力を OFF にしてください。

⑩ BALANCE つまみ

L(左)、R(右)チャンネルどちらか一方の音量を調節する場合に使用するつまみです。バランスつまみがどちらか一方に回し切られていると、反対側のチャンネルからは音が出ません。
SOURCE DIRECT ボタンが ON の状態では調整できませんのでご注意ください。

⑪ トーンコントロールつまみ（BASS/TREBLE）

低音(BASS)と高音(TREBLE)の音質を調整するつまみで、それぞれのつまみを時計方向に回すと強められ、反時計方向に回すと弱められます。SOURCE DIRECT ボタンが ON の状態では調整できませんのでご注意ください。

⑫ REC SELECTOR つまみ

録音するときに入力ソースを切り替えるつまみです。また、テープデッキ、CD-R 等を RECORDER 1 と 2 の端子に接続してコピーできます。録音しない場合は音質上 OFF にしておくことをお勧めします。(15 ページ参照)

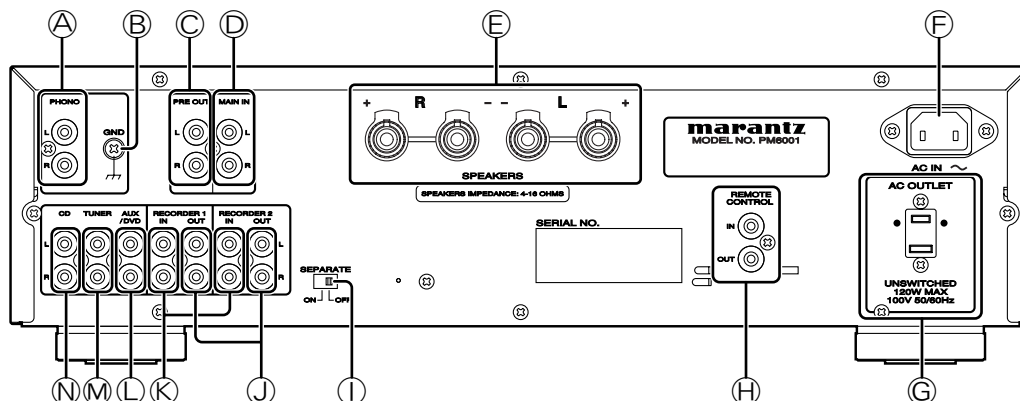
⑬ 赤外線受光窓

付属のリモコン(RC6001PM)から送られるコントロール信号を受光する窓です。リモコンをこの窓に向けて送信してください。

⑭ PHONES ジャック

ステレオ標準プラグのヘッドホンを接続するジャックです。ヘッドホンをご使用になる時は SPEAKERS ボタンを OFF にしてお使いください。

各部の名称とはたらき

背　面

Ⓐ PHONO 入力端子

アナログレコードプレーヤーに接続する端子です。MMカートリッジが使用できます。

Ⓑ PHONO GND 端子

レコードプレーヤーからのアース線を接続してください。

Ⓒ PRE OUT 端子

他のメインアンプやアクティブサブウーハーの入力端子に接続する端子です。

Ⓓ MAIN IN 端子

本機をメインアンプとして使用する場合に他のプリアンプの出力端子に接続します。この場合は SEPARATE スイッチを ON に設定してお使いください。

Ⓔ SPEAKERS 出力端子

スピーカーシステムを接続します。フロントパネルの SPEAKERS ボタンでスピーカー出力を ON/OFF することができます。

Ⓕ AC IN

付属の AC コードで電源コンセントに接続してください。

Ⓖ AC OUTLET

他のコンポーネントの電源プラグを接続することができます。この電源コンセントは本機の電源スイッチとは連動しません。

接続できるコンポーネントの電力容量は 120W 以下です。120W を超える機器を接続すると内部のヒューズが切断し使用できなくなりますのでご注意ください。

Ⓗ REMOTE CONTROL 端子

マランツ製 CD プレーヤーや DVD プレーヤーなどリモートコントロール端子を持つ機器と接続する端子です。
本機に付属のリモコンを使ってシステムコントロールすることができます。
詳しくは 12 ページを参照してください。

Ⓘ SEPARATE スイッチ

本機のプリアンプとメインアンプの接続モードを設定するスイッチです。

OFF ： 通常のプリ・メインアンプとして使用する場合に設定します。（工場出荷設定）

ON ： プリアンプとメインアンプが切り離されますので、本機は MAIN IN 端子を入力するとメインアンプとして使用できます。

Ⓙ RECORDER 1/RECORDER 2 出力端子

CD-R、MD デッキ、テープデッキなどの録音入力端子と接続する端子です。フロントパネルの REC SELECTOR つまみで出力信号を選択することができます。

Ⓚ RECORDER 1/RECORDER 2 入力端子

CD-R、MD デッキ、テープデッキなどの出力端子に接続する端子です。

Ⓛ AUX/DVD 入力端子

DVD プレーヤーや他の LINE 機器などの出力端子に接続する端子です。

Ⓜ TUNER 入力端子

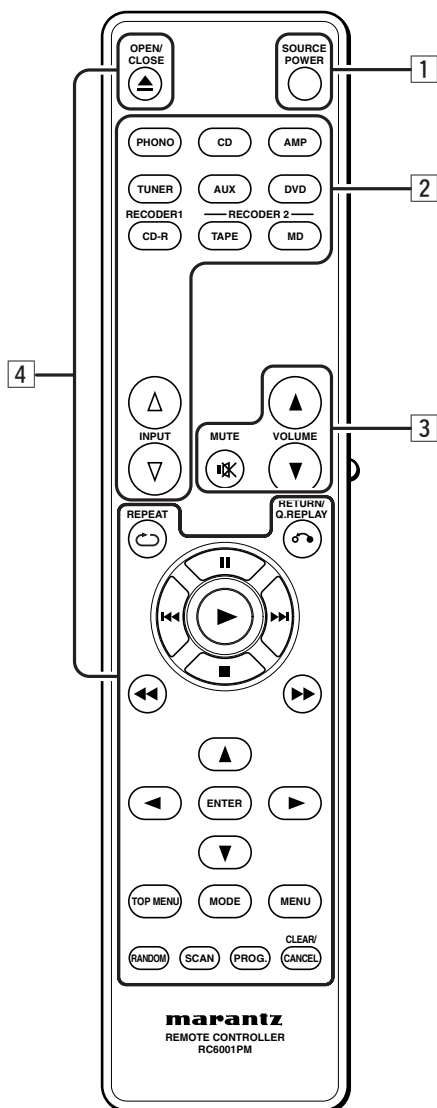
チューナーや他の LINE 機器などの出力端子に接続する端子です。

Ⓝ CD 入力端子

CD プレーヤーなどの出力端子に接続する端子です。

リモコン： RC6001PM

このリモコンはPM6001とリモコン受光窓の付いているマランツ製CDプレーヤーやDVDプレーヤー及びチューナー、テープデッキなどをコントロールすることができます。リモコン操作によりコントロールできる内容が異なる場合もありますので、組み合わせる機器の取扱説明書も参照してください。

RC6001PMのボタンレイアウトは下図を参照してください。

1 SOURCE POWER ボタン

電源スタンバイ機能があるマランツ製品の電源オンとスタンバイの切換えをすることができます。2のボタングループのボタンを押した後にこのボタンを押すと、ボタンに対応したマランツ製品の電源がオンまたはスタンバイに切り換わります。
※リモコンでアンプ本体のON/OFFはできません。

2 入力切換えボタン

● **入力ソースボタン**
入力ソースをダイレクトに選択するボタンです。本機ではAMPボタンは使用しません。

ご注意
PM6001本体ではAUXとDVDおよびRECORDER2のTAPEとMDはそれぞれ同じ入力端子になっていますが、リモコンではマランツ機器を個別に操作できるように別々のボタンが用意されています。

● **INPUT △ボタン**
入力ソースを順送りして選択するボタンです。
本体のファンクションインジケーターに表示される入力ソースを右に送ります。

● **INPUT ▽ボタン**
入力ソースを逆送りして選択するボタンです。
本体のファンクションインジケーターに表示される入力ソースを左に送ります。

3 ボリューム調整ボタン

● **MUTE ボタン**
ミュート状態にするボタンです。もう一度ボタンを押すとミュートを解除します。
ミュート中にVOLUME▲または▼ボタンを押してもミュートを解除します。

● **VOLUME ▲ ボタン**
音量を大きくするボタンです。

● **VOLUME ▼ ボタン**
音量を小さくするボタンです。

4 プレーヤーなどを操作するボタン

マランツ製CDプレーヤーやＤＶＤプレーヤーなどの基本的な操作をするボタンのグループです。2の入力切換えボタンで選択した入力ソースによりそれぞれの機器に対応した機能に変わります。

■ CD

CD ボタンを押した場合は、4 のボタングループは下表のように機能します。CD 入力端子にはマランツ製 CD プレーヤーを接続しておくと操作することができます。

ボタンの名称	機　能
OPEN/CLOSE ⏏	ディスクトレイのオープン/クローズ
REPEAT	リピート再生
RETURN/ Q.REPLAY	クイックリプレイ
❚❚	ポーズ（一時停止）
►	プレイ（再生）
■	ストップ（停止）
►►❙	トラックスキップ（次の曲へ進む）
❙◄◄	トラックスキップ（曲の始め/前の曲へ戻る）
►►	サーチ（早送り)
◄◄	サーチ（早戻し)
▲	使用できません
▼	使用できません
◄	使用できません
►	使用できません
ENTER	クイックリプレイ設定時に使用
TOP MENU	時間表示切り替え
MODE	スーパーオーディオ CD の再生エリア選択
MENU	クイックリプレイ設定時に使用
RANDOM	ランダム再生
SCAN	オートミュージックスキャン（AMS）再生
PROG.	プログラム再生
CLEAR/CANCEL	プログラムした曲の取り消し

■ DVD

DVD ボタンを押した場合は、4 のボタングループは下表のように機能します。AUX/DVD 入力端子にはマランツ製 DVDプレーヤーを接続しておくと操作することができます。

ボタンの名称	機　能
OPEN/CLOSE ⏏	ディスクトレイのオープン/クローズ
REPEAT	リピート再生
RETURN/ Q.REPLAY	前のメニュー画面に戻る
❚❚	ポーズ（一時停止）
►	プレイ（再生）
■	ストップ（停止）
►►❙	トラックスキップ（次の曲へ進む）
❙◄◄	トラックスキップ（曲の始め/前の曲へ戻る）
►►	サーチ（早送り）
◄◄	サーチ（早戻し）
▲	カーソルを上に移動
▼	カーソルを下に移動
◄	カーソルを左に移動
►	カーソルを右に移動
ENTER	選択した項目を決定
TOP MENU	最初のメニュー画面を表示
MODE	音声切り替え
MENU	メニュー画面を表示
RANDOM	ランダム再生
SCAN	サーチ種類を選択
PROG.	プログラム再生
CLEAR/CANCEL	リピート、ランダム、プログラム再生の取り消し

■ TUNER

TUNER ボタンを押した場合は、4 のボタングループは下表のように機能します。TUNER 入力端子にはマランツ製チューナーを接続しておくと操作することができます。

ボタンの名称	機　能
OPEN/CLOSE ⏏	使用できません
REPEAT	使用できません
RETURN/ Q.REPLAY	使用できません
❚❚	バンド切り替え
►	使用できません
■	スリープタイマー（ST7001 のみ）
►►❙	プリセット局順送り
❙◄◄	プリセット局逆送り
►►	チューニング（周波数）アップ
◄◄	チューニング（周波数）ダウン
▲	使用できません
▼	使用できません
◄	使用できません
►	使用できません
ENTER	使用できません
TOP MENU	使用できません
MODE	ステレオ/モノラル切り替え
MENU	メニュー
RANDOM	使用できません
SCAN	プリセットスキャン
PROG.	タイマープログラム
CLEAR/CANCEL	プログラム取り消し

■ TAPE

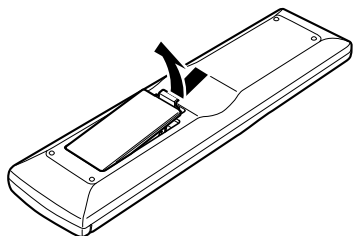
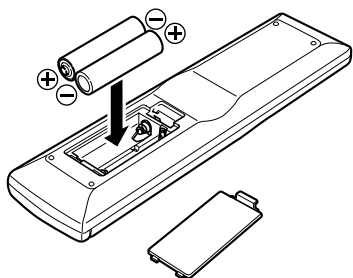
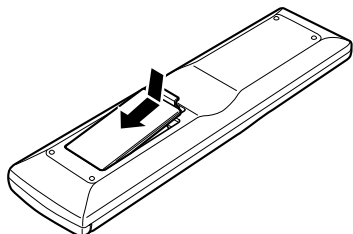
RECORDER 2(TAPE)ボタンを押した場合は、4 のボタングループは下表のように機能します。RECORDER 2（TAPE）端子にはマランツ製テープデッキを接続しておくと操作することができます。

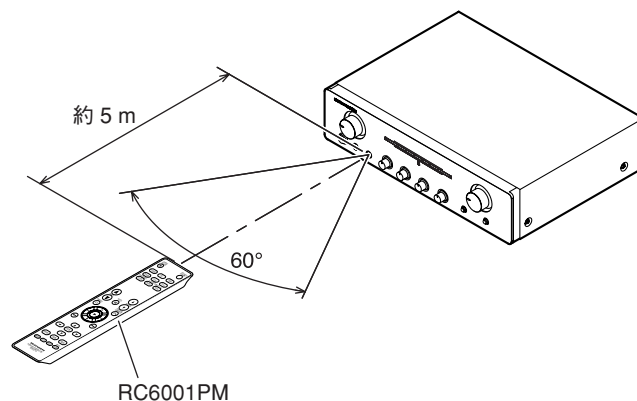
ボタンの名称	機　能
OPEN/CLOSE ⏏	テープ取り出し（対応機種のみ）
REPEAT	使用できません
RETURN/ Q.REPLAY	ダイレクション（A/B 面切り替え）
❚❚	ポーズ（一時停止）
►	プレイ（再生）
■	ストップ（停止）
►►❙	次の曲へ
❙◄◄	前の曲へ
►►	早送り
◄◄	早戻し
▲	使用できません
▼	使用できません
◄	使用できません
►	使用できません
ENTER	使用できません
TOP MENU	時間表示切り替え
MODE	使用できません
MENU	使用できません
RANDOM	使用できません
SCAN	使用できません
PROG.	使用できません
CLEAR/CANCEL	カウンターリセット

■ リモコンの使用について

●リモコンに乾電池を入れる

付属のリモコンを最初にご使用になる前に、リモコンに乾電池を入れてください。
付属の乾電池はリモコンの動作確認用です。

① 裏ぶたをはずします。

② 新しい単４乾電池２本を、極性表示（⊕:プラスと ⊖:マイナスの向き）に注意し、表示通りに正しく入れます。

③ カチッと音がするまでしめます。

●リモコンの動作範囲

リモコンによる本体の操作可能範囲は下図のように約5mの距離です。

●使用上の注意

- リモコンの受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。 リモコンが操作できない場合があります。
- リモコンを操作すると、赤外線で操作する他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると操作できません。
- リモコンの上に物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

基本的な使い方

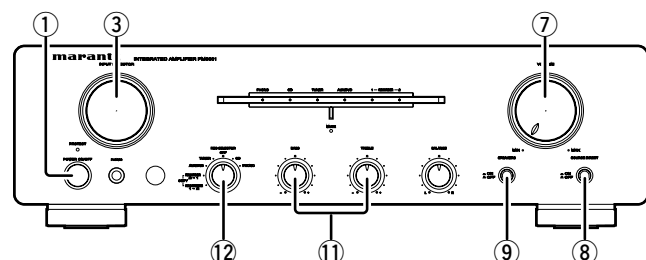
再生のしかた

代表的な例としてCDプレーヤーでディスク再生およびアナログレコードプレーヤーでレコード再生をする手順を説明します。接続方法を参照し機器が正しく本機に接続されていることを確認してください。

■ CDプレーヤーによるディスク再生

1 CDプレーヤーのPOWER ON/OFFボタンを押して電源を入れます。
2 続いて本機の**POWER ON/OFF**ボタン①を押して電源を入れます。電源を入れてから約8秒後にミューティングが解除し音が出る状態になります。
3 本体の**INPUT SELECTOR**つまみ③、またはリモコンの**入力切替え**ボタン[2]でCDを選択します。
4 SPEAKERS端子に接続しているスピーカーをお使いになる場合は、本体の**SPEAKERS**ボタン⑨を押してONにしてください。
5 CDプレーヤーにディスクを入れ、PLAYボタンを押し再生します。
6 本体の**VOLUME**つまみ⑦、またはリモコンの**VOLUME** ▲/▼ボタン[3]で音量を調整します。
7 お好みにより本体の**トーンコントロール**つまみ⑪を回して低音/高音を調整してください。この時本体の**SOURCE DIRECT**ボタン⑧をOFFに設定してください。

■ アナログレコードプレーヤーによるレコード再生

1 本機の**POWER ON/OFF**ボタン①を押して電源を入れます。電源を入れてから約8秒後にミューティングが解除し音が出る状態になります。
2 本体の**INPUT SELECTOR**つまみ③、またはリモコンの**入力切替え**ボタン[2]でPHONOを選択します。不意のアクシデントを防ぐため**VOLUME**つまみ⑦を回して音量を−∞(最小)にしておくことをお勧めします。
3 接続できるカートリッジはMMタイプです。MCカートリッジをお使いになる場合はステップアップトランス等をお使いください。
4 SPEAKERS端子に接続しているスピーカーをお使いになる場合は、本体の**SPEAKERS**ボタン⑨を押してONにしてください。
5 アナログレコードプレーヤーにレコードをセットしてレコードを再生します。
6 本体の**VOLUME**つまみ⑦、またはリモコンの**VOLUME** ▲/▼ボタン[3]で音量を調整します。
7 お好みにより本体の**トーンコントロール**つまみ⑪を回して低音/高音を調整してください。この時本体の**SOURCE DIRECT**ボタン⑧をOFFに設定してください。

録音のしかた

CDプレーヤーなどの入力ソースをCD-Rなどの録音機器に録音する手順を説明します。

1 CDプレーヤーとCD-Rなど録音機器のPOWER ON/OFFボタンを押して電源を入れます。
2 続いて本機の**POWER ON/OFF**ボタン①を押して電源を入れます。電源を入れてから約8秒後にミューティングが解除します。
3 本体の**REC SELECTOR**つまみ⑫でCDを選択します。録音するソースをスピーカーで聴く場合は、**INPUT SELECTOR**つまみ③でCDを選択します。
4 CDプレーヤーに再生するディスクを入れます。CD-Rなどの録音機器に録音するディスクを入れます。
5 CDプレーヤーを操作して再生します。続いて、CD-Rなどの録音機器を操作して録音します。

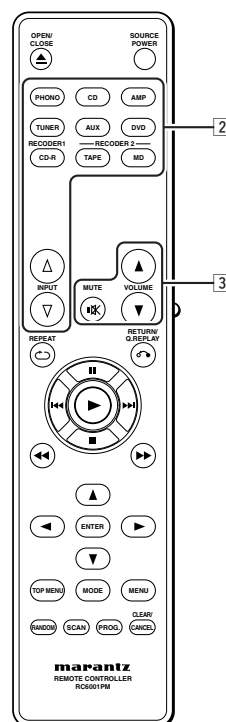
REC SELECTORについて

REC SELECTORはINPUT SERECTORの入力ソースの選択にかかわらず独立して操作できます。

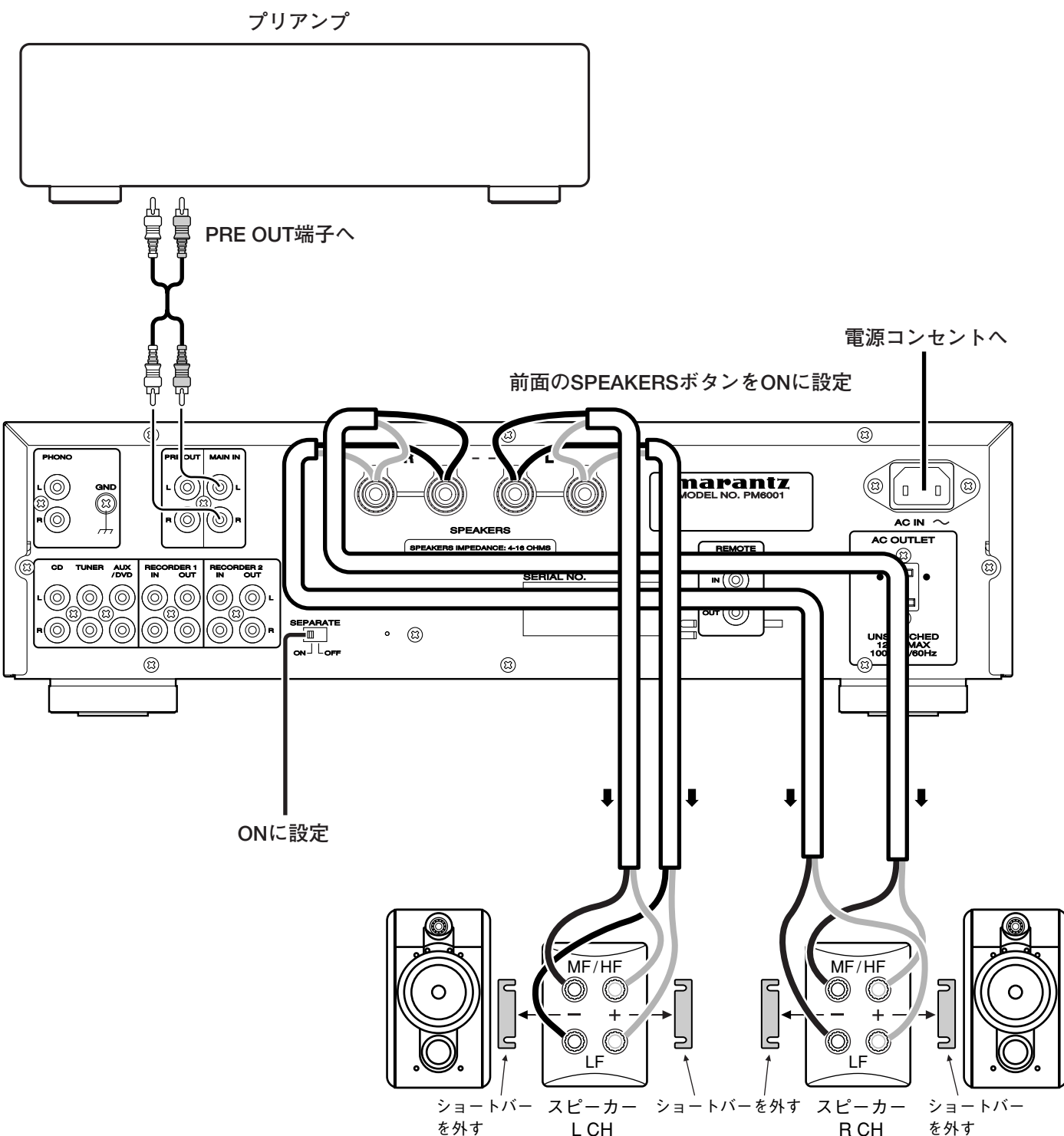
OFF:
RECORDER1、2の出力端子に信号は出力されませんので録音することはできません。

PHONO、CD、TUNER、AUX/DVD:
録音するプログラムソースを選択します。

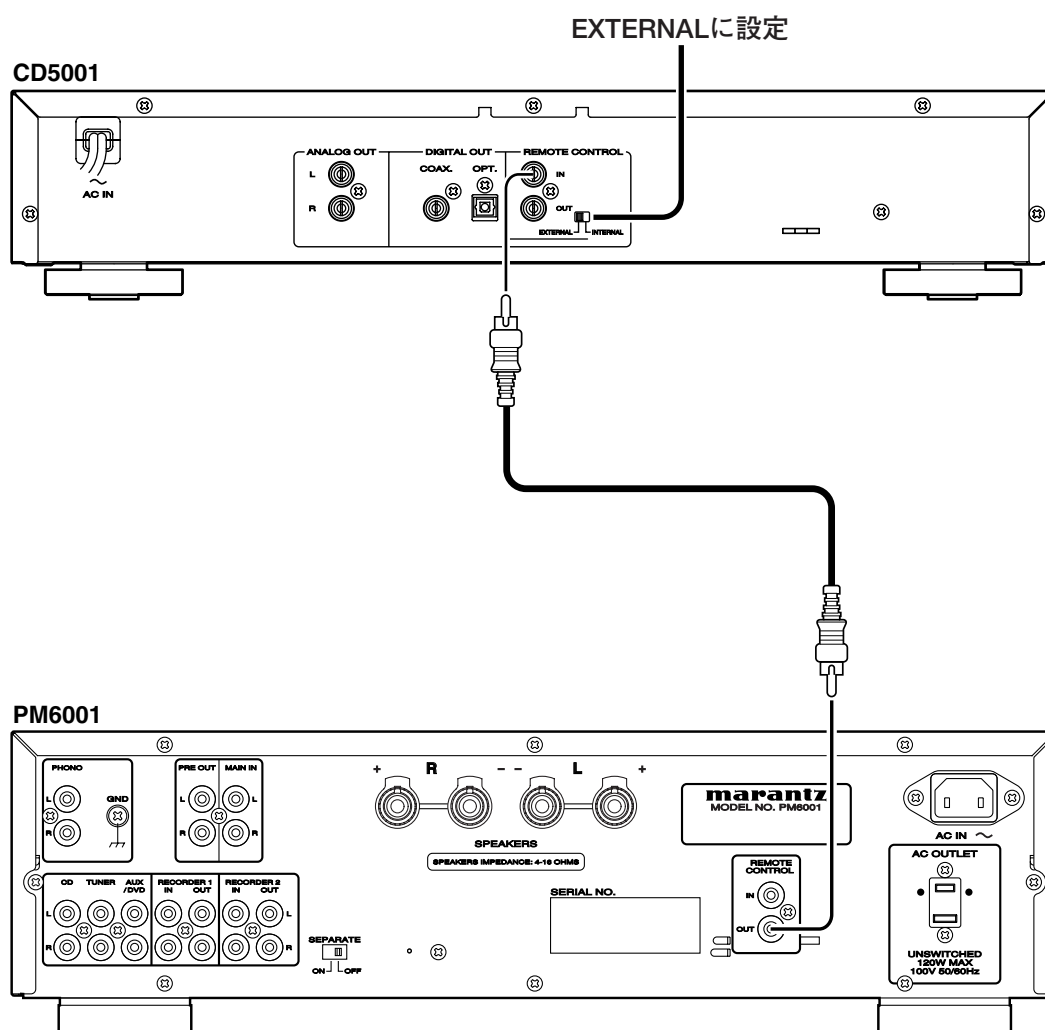
COPY RECORDER 1 → 2:
RECORDER 1の信号をRECORDER 2へコピーする場合に選択します。

COPY RECORDER 2 → 1:
RECORDER 2の信号をRECORDER 1へコピーする場合に選択します。

機能の使い方と設定のしかた

MAIN IN 端子について

本機は SEPARATE スイッチの設定でプリアンプ部とメインアンプ部を切り離すことができます。
他のプリアンプをお持ちの場合は、本機をメインアンプとして使用できますので、図のように接続してください。

スピーカーの接続は 7 ページもご参照ください。

リモートコントロール端子

リモートコントロール端子はマランツ製CDプレーヤーやDVDプレーヤーなどのリモートコントロール端子を持つ機器と接続する端子で、本機に付属しているリモコンを使ってシステムコントロールする時に使用する端子です。本機にはマランツ製CDプレーヤーやDVDプレーヤーの基本機能を操作することができるシステムリモコンRC6001PMを付属しています。例としてこのリモコンを使って本機とマランツ製CDプレーヤーCD5001をシステムコントロールする方法を簡単に説明します。
下図のようにCD5001のリモートコントロール“IN”端子と本機のリモートコントロール“OUT”端子を接続し、CD5001のスイッチをEXTERNALに設定してください。
リモコン： RC6001PM（12、13、14ページ）を参照し本機の受光窓に向けて送信すると、本機とCD5001の両方を操作することができます。

故障とお考えになる前に

故障かな？と感じたらちょっとチェックしてください。
意外な操作ミスで故障と思われていることがあります。
下記の項目をチェックしても直らない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの営業所、お客様相談センター、または当社サービスセンターにご相談ください。

★ 電源が入らない

1. 電源ケーブルが確実に電源コンセントに差し込まれていますか？
2. もし、PROTECT インジケーターが点滅している場合は保護回路が動作しています。いったん本機の電源ボタンを切り、1 分ほど経ってからもう一度電源を入れてください。

★ スピーカーから音が出ない

1. 前面の SPEAKERS ボタンが OFF になっていませんか？
2. MUTE 機能が動作していませんか？
3. 前面の INPUT SELECTOR で選択した入力ソースが間違っていませんか？
4. プレーヤー(再生機器)などの使用法を間違っていませんか？
5. 接続コードやスピーカーコードが確実に接続されていますか？
6. リアパネルにある SPARATE スイッチの設定が間違っていませんか？
7. 保護回路が動作し自動的に音量を絞った可能性があります。もう一度音量を調整してください。

★ レコードプレーヤーの音が出ない、または雑音が大きい

1. 接続コードが正しく接続されていますか？
2. レコードプレーヤーからのアース線を PHONO GND 端子に接続してください。
3. カートリッジがトーンアームに正しく接続されていますか？

■ 保護回路について

本機はアンプ回路およびスピーカーシステムを破損から保護する「保護回路」を搭載しています。保護回路が働くと直ぐにミュート状態になり、電源ボタン上部の PROTECT インジケーターが点灯もしくは点滅します。
PROTECT インジケーターの点滅は、保護回路が異常を検出したため強制的にアンプ回路の電源を切ったことを表示しています。このときパネル中央の POWER インジケーターは消えていますが、本機の電源は完全には切れていませんのでもう一度電源ボタンを押して電源をお切りください。

● 電源投入時

電源投入時アンプ回路が安定するまでの約８秒間、保護回路が働きミュート状態になります。この間は PROTECT インジケーターが点灯します。その後アンプ回路が安定すると保護回路が解除して音が出る状態になります。

● 過大な電流が流れた時

過大な信号が入力されアンプ回路に過大な電流が流れたときや、インピーダンスが 4 Ω未満のスピーカーシステムを接続して使用したときなど、設定値以上の電流を検出した場合に保護回路が働きます。誤ってスピーカーコードをショートしたときにも保護回路が働きます。
このとき PROTECT インジケーターが点灯してミュート状態になり、更に MUTE インジケーターが点滅して自動的にボリュームを絞ります。そして約 15 秒後に保護回路が解除しますので音量を再調整してください。
また、過大な電流が流れ続けた場合には、PROTECT インジケーターが点滅して自動的にアンプ回路の電源が切れます。

● 過大な超低域の信号が入力されたとき

設定値以上の超低域信号が入力された場合も保護回路が働きます。このとき PROTECT インジケーターが点灯してミュート状態になり、更に MUTE インジケーターが点滅して自動的にボリュームを絞ります。そして約 15 秒後に保護回路が解除しますので音量を再調整してください。また、過大な超低域信号が連続している場合や回路の異常で直流電圧が検出された場合には、PROTECT インジケーターが点滅して自動的にアンプ回路の電源が切れます。

● メインアンプが加熱したとき

過大な信号が入力された状態で連続使用した場合など、メインアンプ部が設定以上の温度になると保護回路が働きます。
また、天面の通風孔を塞いで使用した場合や、狭いラックに入れて使用した場合にも設定値以上の温度になると保護回路が働きます。このとき PROTECT インジケーターが点灯してミュート状態になり、更に MUTE インジケーターが点滅して自動的にボリュームを絞ります。そして約 15 秒後に保護回路が解除しますので音量を再調整してください。
保護回路が動作してから設定時間内に温度が下がらなければ、PROTECT インジケーターが点滅して自動的にアンプ回路の電源が切れます。

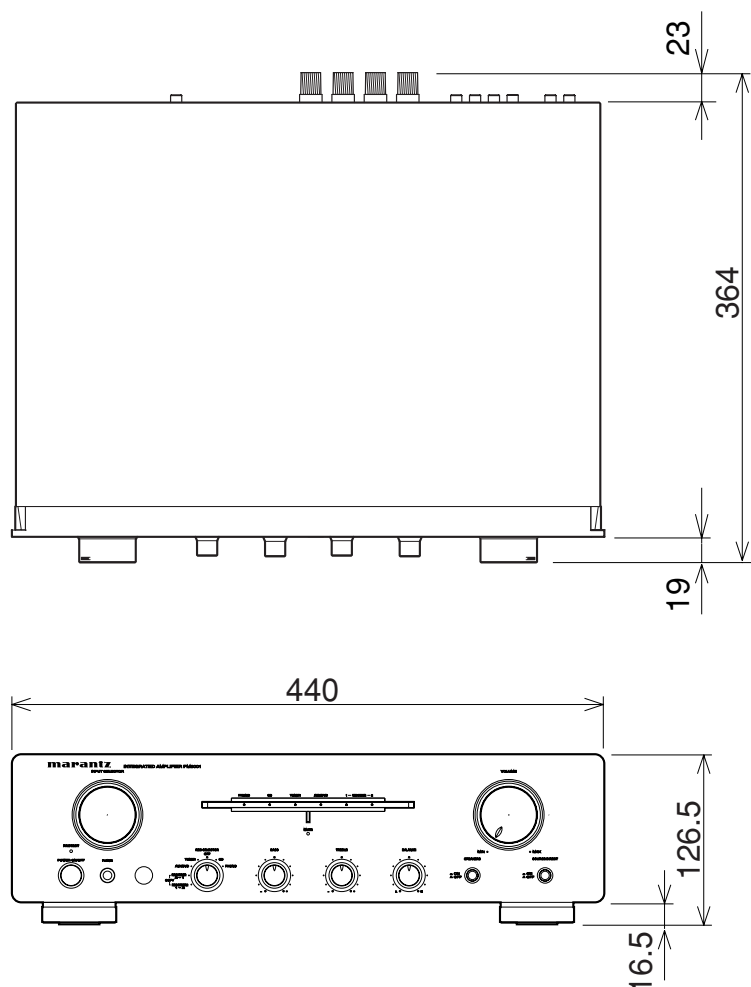
● 故障したとき

本機の電源回路に異常を検出した場合は保護回路が働いて自動的にアンプ回路の電源が切れます。また、本機内部のヒューズが切れた場合も保護回路が働きアンプ回路の電源が切れます。このときは PROTECT インジケーターが点滅します。

仕様・外観寸法図

定格出力（20Hz － 20kHz 両 ch 同時駆動）
..........50W × 2（8 Ω負荷）
..........70W × 2（4 Ω負荷）
全高調波歪率（20Hz － 20kHz 両 ch 同時駆動、8 Ω負荷）
..........0.02 %
出力帯域幅（8 Ω負荷、0.05 %）..........5Hz － 60kHz
周波数特性（CD、1W、8 Ω負荷）.....5Hz － 100kHz ± 3dB
ダンピングファクター（8 Ω負荷、20Hz － 20kHz）........100
入力感度/入力インピーダンス
PHONO（MM）..........2.3mV/47kΩ
CD、LINE、TUNER、AUX/DVD、RECORDER
..........200mV/20kΩ
MAIN IN..........1.3V/20kΩ
出力電圧/出力インピーダンス
PRE OUT..........1.3V/560 Ω
PHONO 最大許容入力（1kHz）
MM..........130mV
RIAA 偏差（20Hz － 20kHz）..........± 0.5dB

S/N 比（IHF A ネットワーク、1 W 出力、8 Ω負荷）
PHONO（MM）..........85dB（5mV 入力）
CD/LINE..........87dB（500mV 入力）
MAIN IN..........105dB
トーンコントロール
BASS（50Hz）..........± 10dB
TREBLE（20kHz）..........± 10dB
電源電圧..........AC100V、50/60Hz
消費電力
（J60065）..........135W
付属品
AC 電源ケーブル..........1
リモコン（RC6001PM）..........1
単 4 乾電池..........2
保証書..........1
愛用者登録カード..........1
取扱説明書..........1
最大外形寸法（本体）
幅..........440mm
高さ..........126.5mm
奥行き..........364mm
質量（本体）..........8.6kg

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

単位：mm

その他

■ お手入れ

- セットが汚れた時は柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどい時は食器用洗剤を５～６倍にうすめ、やわらかい布に浸し、固く絞って汚れをふきとったあと、乾いた布でからぶきしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付着すると塗装がはげたり、光沢が失われることがありますから絶対にご使用にならないでください。また、化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと変質したり、塗料がはげたりすることがありますのでご注意ください。

■ ステレオ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

■ 保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。
   保証書は「販売店印・保証期間」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。
2. 本体の保証期間はお買い上げ日より１年間です。
   お買い上げ販売店又は弊社営業所で保証記載事項に基づき「無料修理」致します。
3. 保証期間経過後の修理。
   修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低 8 年間保有しています。
5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または弊社営業所・サービスセンターに遠慮なくご相談ください。
6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度“故障とお考えになる前に”をご参照の上よくお調べください。それでも直らない時は、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げ販売店または当社営業所、サービスセンターにご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1）品名	インテグレーテッドアンプ
2）品番	PM6001
3）お買い上げ日	年　月　日
4）故障の状況	（できるだけ具体的に）
5）ご住所	
6）お名前	
7）電話番号	

marantz®

お客様ご相談センター

〒104-0033　東京都中央区新川 1-21-2　茅場町タワー13F

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間
9：30－12：00　13：00－17：00
（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社マランツコンシューマー マーケティング
〒104-0033　東京都中央区新川 1-21-2　茅場町タワー13F

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。
http://www.marantz.jp

Printed in China　01/2006　00M17AJ851110　mzh-g